

2017年 6月1日 木 → 7月23日 日



2. 月唱

1階
展示室

いる

板から生まれる／木版画の彩とわざ

No.	作品名	原画制作年	版画制作年	寸法(cm)	技法 版数	用紙	工房	取材地
1.	たにま	1953(昭和28)年	1999(平成11)年	47.8×37.8	木版画 68版	越前奉書紙	彫:伊丹忠敬 摺:上杉猛	長野県、野沢温泉村
2.	げっしょう 月唱	1965(昭和40)年	1983(昭和58)年	45.7×37.1	木版画 60版	奉書 漉:岩野市兵衛	彫:菊田幸次郎 摺:上杉桂一郎・猛	北海道鹿追-上士幌町、然別湖
3.	げっこう 月篋	1967(昭和42)年	1991(平成3)年	43.0×60.0	木版画 60版	越前紗漉奉書紙	彫:川嶋達夫 摺:佐々木茂	京都市右京区、嵯峨野
4.	しゅんせつ 春雪	1973(昭和48)年	1986(昭和61)年	35.8×45.7	木版画 40版	奉書 漉:岩野市兵衛	彫:菊田幸次郎・藤沢洋 摺:上杉桂一郎	京都府、洛北
5.	ゆうせいじゃく 夕静寂	1974(昭和49)年	1994(平成6)年	44.1×30.5	木版画 不詳	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	長野-岐阜県、奥穂高
6.	たにわかば 谿若葉	1976(昭和51)年	1984(昭和59)年	35.1×45.5	木版画 120版	奉書 漉:岩野市兵衛	彫:菊田幸次郎・藤沢洋 摺:上杉桂一郎・猛	長野県山ノ内町、志賀高原
7.	りこうせんり 灘江千里	1976(昭和51)年	1989(平成元)年	30.1×41.7	木版画 18版	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	中国、桂林
8.	あおたに 青い谷	1977(昭和52)年	1994(平成6)年	31.2×38.4	木版画 不詳	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	富山県宇奈月町、黒部峡谷
9.	そうげんぼうぼく 草原放牧	1977(昭和52)年	1989(平成元)年	30.5×42.2	木版画 13版	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	中国、新疆ウイグル自治区
10.	こうざんうしゅう 黄山雨収	1978(昭和53)年	1992(平成4)年	30.7×43.6	木版画 20版	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	中国、黄山
11.	りこうげつめい 灘江月明	1978(昭和53)年	1989(平成元)年	30.3×43.0	木版画 20版	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	中国、桂林
12.	ぬませいじゃく 沼の静寂	1983(昭和58)年	1988(昭和63)年	30.5×44.0	木版画 不詳	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	オーストリア、インスブルック
13.	けいおん 溪音	1986(昭和61)年	1993(平成5)年	50.0×34.5	木版画 102版	耳付越前生漉奉書紙 漉:岩野市兵衛	彫:伊丹忠敬 摺:上杉猛	三重県名張市、赤目溪谷
14.	りよくえい 緑影	—	1986(昭和61)年	31.0×43.9	木版画 不詳	越前生漉奉書紙	アダチ版画研究所	長野県茅野市、蓼科高原

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

東山魁夷略年表

1908年(明41) 7月8日、横浜市生まれ。1911年、神戸市に転居。本名「新吉」は、坂出市櫃石島出身の祖父の名をもらったもの。

1926年(大15/昭元) 18歳 東京美術学校(現・東京藝術大学)日本画科入学。

1931年(昭 6) 23歳 東京美術学校研究科に進み、結城素明に師事。雅号を「魁夷」とする。

1933年(昭 8) 25歳 東京美術学校研究科修了。8月渡欧しベルリン大学でドイツ語を学ぶ。

1934年(昭 9) 26歳 第一回日独交換留学生に選ばれ、ベルリン大学哲学科美術史学部入学。

1935年(昭10) 27歳 父の病気の知らせを受け、留学期間1年を残して帰国。

1945年(昭20) 37歳 召集をうけ熊本に配属。終戦後、千葉県市川市に移って制作を再開。

1947年(昭22) 39歳 第3回日展に出品した《残照》が特選を受賞、風景画家として立つことを決意。

1950年(昭25) 42歳 第6回日展に《道》を出品、好評を得る。

1953年(昭28) 45歳 第9回日展に《たにま》を出品。

1956年(昭31) 48歳 日本芸術院賞を受賞。

1959年(昭34) 51歳 第2回新日展に、櫃石島を描いた《暮潮》を出品。

1962年(昭37) 54歳 4～7月まで北欧4カ国を写生旅行。

1968年(昭43) 60歳 皇居宮殿壁画《朝明けの潮》完成。「朝明けの潮／京洛四季」展開催。

1969年(昭44) 61歳 4～9月までドイツ、オーストリアを旅行。文化勲章受章、文化功労者に選ばれる。

1973年(昭48) 65歳 「白い馬の見える風景」展開催。

1974年(昭49) 66歳 改組第6回日展に《夕静寂》を出品。

1975年(昭50) 67歳 唐招提寺御影堂の第一期障壁画《山雲》《濤声》を奉納。

1980年(昭55) 72歳 唐招提寺御影堂第二期障壁画の三題《黄山曉雲》《揚州薰風》《桂林月宵》を奉納。

1998年(平10) 90歳 第30回日展に《月光》を出品、最後の日展出品作となる。

1999年(平11) 91歳 5月6日、逝去(90歳)。



3. 朝の内海

2階
展示室

波響く／海をめぐる旅

No.	作品名	原画制作年 ※は制作年	版画制作年	寸法(cm)	技法 版数	用紙	工房	取材地
1.	ゆうなぎ(ちょうりょう) 夕凧(朝涼)	1949(昭和24)年頃*	—	36.6×51.4	絹本彩色 —	—	—	青森県八戸市、種差海岸
2.	ちょうおん 潮音	1953(昭和28)年頃*	—	33.7×51.9	紙本彩色 —	—	—	
3.	あさ うちうみ 朝の内海	1959(昭和34)年頃*	—	41.2×37.8	紙本彩色 —	—	—	岡山県倉敷市鷺羽山より望む、 櫃石島(香川県坂出市)
4.	うみ いわ 海と岩 スケッチA	1966-67(昭和41-42)年頃*	—	31.4×44.5	紙本彩色 —	—	—	
5.	うみ いわ 海と岩 スケッチB	1966-67(昭和41-42)年頃*	—	44.7×31.8	紙本彩色 —	—	—	
6.	いわ 岩 スケッチC	1966-67(昭和41-42)年頃*	—	25.0×34.0	紙本彩色 —	—	—	
7.	しお さい 潮騒	1973(昭和48)年	1990(平成2)年	32.5×46.0	リトグラフ 21版	ヴェラン・アルシュ紙	MMG版画工房	
8.	まつ いわ 松と岩	1973(昭和48)年	1977(昭和52)年	32.5×45.6	リトグラフ 不詳	ヴェラン・アルシュ紙	ムルロ工房(パリ)	
9.	とうせい 濤声	1975(昭和50)年	1994(平成6)年	57.6~62.5×642.4	リトグラフ 318版(全16面合計)	BFKリーヴ紙	森工房	

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

版画の豆知識

版画はさまざまな版の形式と技法がありますが、木、金属、石、絹といった版材でつくる版形式は大きく4つ(凸版、凹版、平版、孔版)に分類できます。

木版画(凸版:とつはん)

浮世絵などで伝統的に用いられてきた技法。木の板を彫刻刀等の刃物で削り、デコボコを作ります。凸(トツ)の部分に絵具を塗り、紙をのせて圧力をかけて擦ります。凸の部分に塗った色だけが紙に写し取られます。

銅版画(凹版:おうはん)

木版画とは逆に、銅板に鋭利な刃物でキズをつけ、凹(オウ)の部分にインクを詰め、紙をのせて圧力をかけて凹(オウ)の部分のインクを刷り取ります。銅板を直接削って描画する「直接法」と、酸溶液に浸けて銅を腐食させることによって凹みをつくる「腐蝕法(エッチング)」があります。

リトグラフ(平版:へいはん)

表面を平らに磨いた石灰石(石板)の上にクレヨンや油性のインキなどで直接描き、その上に弱酸性溶液を塗ると、化学反応によって描かれた部分は油分を引き付け、描かれない部分は水分を保持するという、油が水をはじく原理を利用した技法。作画した部分にだけインクがつくように加工し、その上に紙をのせてプレス機で刷ります。

シルクスクリーン、セリグラフ(孔版:こうはん)

一枚の厚紙に適当な形の孔をあけ、その下に一枚の紙を置き厚紙の上から顔料を刷り込むと、顔料が孔を通り、その孔の形をそのまま下の紙にうつし取ることができます。この単純な原理から出発したのが孔版と呼ばれる版形式です。

版画の余白部分には何らかの記号が記され、それぞれに意味があります。

「○/▲」エディションナンバーといい、分母(▲)は発行部数、分子(○)は通し番号を意味する数字が入ります。(例)「54/250」

「E.A.」épreuve d'artiste(仏) 作家保存用 「A.P.」 artist's proof(英) 作家保存用 「H.C.」 hors commerce(仏) 非商業用つまり作家や工房が保存する

*当館所蔵の版画作品は東山魁夷が所有していた保存版で、ほとんどの作品がE.A.と記されています。

ミュージアムトーク

当館学芸員による作品解説を行います。

11:00~11:30(観覧券必要)

◎6月3日(土) ◎6月17日(土)

◎7月1日(土) ◎7月15日(土)

夕焼けコンサート「坂出高等学校音楽科生徒による演奏会」

◎7月14日(金) 18:00~19:00 ※コンサートのみの入場は無料です。

定員:80名(当日17:00から受付・先着順) 会場:美術館1階ラウンジ

魁夷が制作の合間に好んで聴き、創作のインスピレーションを得たというモーツァルトをはじめ、親しみやすいクラシック曲など、坂出高等学校音楽科生徒さんによる演奏です。暮れなずむ瀬戸内海を眺めながら、ラウンジで奏でられる音楽に心と和むひとときをお楽しみください。



香川県立

東山魁夷せとうち美術館

Kagawa Prefectural Higashiyama Kai Setouchi Art Museum

〒762-0066 香川県坂出市沙弥島字南通 224-13

Tel 0877-44-1333 Fax 0877-44-0220 <http://www.pref.kagawa.lg.jp/higashiyama/>